

指導資料

鹿児島県総合教育センター

英語 第57号

- 中, 高等学校, 盲・聾・養護学校対象 -

平成14年11月発行

基礎・基本の定着を図る英語科の学習指導と評価

基礎・基本とは、学習指導要領の示す目標及び内容の総体である。これらの定着を図るためには、生徒の学習状況を適切に評価し指導に生かすことが重要である。

そこで、本稿では指導と評価の一体化を通して基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方について述べる。

1 評価の基本的な考え方

(1) 評価の機能と役割

評価においては、身に付けた結果の知識の量だけ进行评估するのではなく、学ぶ過程で発揮された生徒のよい点や可能性、進歩の状況等も参考にしながら、学ぼうとする意欲、思考力や判断力などを積極的に評価しなければならない。

そのためには、学力をいくつかの側面から分析、構造化してとらえ、多面的に評価しようとする観点別学習状況の評価が重要である。これまで、この評価が取り入れられてきたが、十分には活用されていなかった。そこで、評価を学習指導の改善に生かすといった評価機能を再認識して、目標に準拠した評価を進める必要がある。

(2) 評価規準の作成

学習指導要領に示された目標に照らし、生徒の学習の到達度を客観的に評価するための拠りどころとなるものさしが評価規準である。各学校では、学習指導要領に示された目標及び内容を観点別に分析し、「おおむね満足できる」状況が生徒の姿でみえるような学校独自の具体的な評価規準を作成する必要がある。その際、国立教育政策研究所等で作成された評価規準を活用することも考えられる。

(3) 指導と評価の計画

指導目標を達成させるためには、一般的に評価規準を基に、どの場面で、どのような方法で評価し、指導に生かしていくかなどを配慮して指導計画を立てる。その具体的な評価方法としては、教科の特性や学習活動の内容、発達段階、評価の観点などによって、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用いることが考えられる。また、自己評価や相互評価等、生徒による評価も取り入れ、工夫することも大事である。評価の場として、一単位時間では、すべての観点を評価するのではなく、

ねらいに即して重点化を図り，評価が指導に生かされるようにする。ここで，「おおむね満足できる」状況にない場合の手だてや「おおむね満足できる」状況にある生徒への方策もあらかじめ考えておく必要がある。

学習の評価によって教師の指導を改善し，生徒の学習状況を改善することは重要である。基礎・基本の定着を図るために，「その時，その場で，必要なこと」を指導したり，支援したりするとともに，定着が不十分な場合には，更なる指導の改善を図ることが大切である。

2 英語科における評価規準作成上の留意点

評価規準を作成するに当たっては，英語科のように育成すべき能力が具体的に示されている教科では，その能力をどのような教材を使って指導すればよいかという教材分析に重点を置くことが大切である。

その教材分析に基づいて，教材との関連を明確にした單元ごとの評価規準を具体化するとともに，年間を見据えた評価計画を作成していくことが重要となってくる。その際，学期・年間等でみたときに，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点において，バランスよく評価がなされるように工夫する必要がある。

3 指導と評価の計画

指導を一層効果的なものにする方法として，評価を生かしていくことが考えられる。

指導と評価の計画を立てる際には，一単位時間ですべての観点を評価するのではなく，重点的に評価する項目を1ないし2にすれば，負担もあまりなく評価することができる。また，各単元や年間の指導計画とタイアップする形で評価規準を設定すれば，指導と評価の一体化が図れる。

このようなことを基に，今回の学習指導要領で特に求めている実践的コミュニケーション能力の育成を目指した指導と評価の例を，日米のジェスチャーやことばの使い方相違から文化の違いに気付かせる内容である『NEW HORIZON English Course 3』「Unit 4 An American *Rakugo-ka*」（全7時）（東京書籍）を用いて述べる。

(1) 単元における評価規準の考え方

まず，「単元の指導目標」（表1）をしっかり分析し，観点を網羅した「単元の評価規準」（表2）を作成する。次に，この評価規準を基に，学習活動における「具体的な評価規準」を作成する。そして，この具体的な評価規準を基にして，単元における指導と評価の計画を立てる。

一般的な指導事項として，言語材料についての知識・理解を深める言語活動や，考えや気持ちを伝え合う言語活動などがあるが，この課では，特に，コミュニケーション能力と関連の深い事項であるジェスチャーや言い換えについても扱っている。英語表現だけでなくこれらを用いて相手に伝えたいことを表現する活動を行うことで，実践的コミュニケーション能力を育成することにつながると考えられる。

(表1) 【単元の指導目標例】

<p>落語での扇子の使い方を知り、落語に興味・関心をもたせ、米国人落語家の小咄を通して、ことばやジェスチャーにおける日米文化の違いを読み取らせる。また、発展学習として、コミュニケーションに困ったときに使う有用表現や手段を理解し、実践的コミュニケーション能力を育成する。</p>

(表2) 【単元の評価規準例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力
不定詞を含む表現を用いて自分のことについて進んで表現しようとする。 日米のコミュニケーションの図り方の違いを調べ、また、様々な手段を用いて対話しようとする。	不定詞を含む表現を使って、英文を作ることができる。 非言語的手段を用いて、伝えたい内容を表現することができる。

理解の能力	言語や文化についての知識・理解
不定詞を含む表現を読んだり聞いたりして、その内容を日本語で言うことができる。 日米のコミュニケーションの図り方の違いに関する英文を読んで、その内容をまとめることができる。	不定詞を含む表現の意味を知り、それを用いて英文を作ることができる。 日米のコミュニケーションの図り方の違いについて説明することができる。

(2) 指導と評価計画の具体例

評価を進める際には次の点に留意する必要がある。

ア 一単位時間の授業では、評価の観点を重点化する。

イ 様々な評価方法を工夫し、生徒の学習状況を適切に評価する。

ウ 学習過程と学習結果の両方を評価する。

さらに、評価を記録する補助簿等も必要であるが、観点別の評価については、

単なる蓄積のみに終わらず、指導に生かす工夫をすることが大切である。

(: おおむね満足できる状況にある生徒への方策)

(: おおむね満足できない状況にない生徒への手だて)

時間	主な学習活動	重点評価項目と具体的な評価規準				評価方法 評価を指導に生かす方策と手だて
		関意態	表現	理解	知・理	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 本文(パンフレット)の内容を理解する。 「疑問詞+不定詞」を含む表現を読んだり聞いたりして運用に慣れる。 			<p>【理解】 疑問詞+不定詞が用いられている英文を聞いてその内容のあらましを日本語で言える。</p>		<p>挙手 ワークシート</p> <p>: ターゲットセンテンスを繰り返し音読し、文の構造を理解させる。</p>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 本文(対話文)の内容を理解する。 「It is + 形容詞 + for ~ to」の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 			<p>【知識・理解】 「It is + 形容詞 + for ~ to」の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。</p>		<p>生徒の応答の観察 ワークシート 自己評価</p> <p>: ターゲットセンテンスを繰り返し音読し、文の構造を理解させる。</p>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 本文(小咄)の内容を理解する。 非言語的手段などを用いて伝えたい内容を理解してもらう。 			<p>【関・意・態】 積極的にジェスチャーを用いて伝えたい内容を表現し、相手に理解してもらうことができる。</p>		<p>生徒の応答の観察 発表 自己評価</p> <p>: 適切なジェスチャーを提示し、コミュニケーションを図らせる。</p>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> 本文(小咄)の内容を理解する。 非言語的手段などを用いて伝えたい内容を表す。 			<p>【表現】 様々な手段を用いて伝えたい内容を表現し、相手に理解することができる。</p>		<p>生徒の応答の観察 ワークシート 自己評価</p> <p>: ワークシートの発展的な問題に取り組ませる。 : 表現に使えるような単語を出し、それを組み合わせて意味を伝えられるようにする。</p>

4 評価方法の工夫例

(1) 観点別評価と評価方法

評価を適切に行うためには、様々な評価方法を組み合わせるなどの工夫をする必要がある。

その際には、観点に合った評価方法を選択していく。例えば、「関心・意欲・態度」や「表現の能力」については、時間的制約等もあるが、生徒との面接によって評価したり、生徒の音読した音声を録音し、それを評価する方法等が考えられる。また、評価する際の規準についてALTと共通理解を図って、共同で評価することもできる。

また、観察による評価も有効である。例えば、「目標文を用いて積極的に対話を行うことができる」という評価規準を設定した場合、生徒の具体的な活動状況を観察することで評価が行える。

その他に、自己評価の活用も考えられる。

(2) 自己評価票の活用

自己評価票を活用する場合には、記号によって記入を求める場合と、文章の記述を求める場合とがある。生徒の実態や学習内容に合わせて使い分けのようにしたい。記号を用いる場合は、評価が形骸化しないように段階を工夫するとよい。

また自己評価をさせる際には、自己の活動を客観的に評価する能力を育成するとともに、その結果を次に活かしていくために、どのように改善すべきであるかを考えさせることも必要である。

次に自己評価票の例を挙げる。

A：よい B：ややよい C：あと少し D：もっと努力を

観 点	評 価 項 目	評 価
関 心 意 欲 態 度	積極的に対話をしたり、英語を理解したりしようと努めたか。	A B C D
表 現	ジェスチャーを使って、相手に言いたいことを伝えられたか。	A B C D
理 解	レストランでの注文の仕方に日米の違いがあることを理解できたか。	A B C D
知 識 理 解	レストランでの注文の仕方について、日米の文化の違いを理解できたか。	A B C D
【本時を終えての感想・意見】		

(3) テスト問題の工夫例

コミュニケーションの能力や積極性を育成しようとするれば、それを評価する問題も工夫する必要がある。

その一つの例として、英語の概要や要点等、必要な情報を収集し、またそれを発信できるような問題を以下に示す。

1 あなたは、博多行き「つばめ」に乗っています。英語の車内放送が流れます。その内容について次の質問に答えなさい。

ビューフェは何号車ですか。
5号車には何がありますか。

2 海外からの旅行者が、あなたの乗車した3号車に熊本駅から乗り込んで、あなたに英語で話しかけてきました。次のことを説明するための英語を書きなさい。

その人の座席は指定席で、指定席は6～7号車である。
長崎に行くためには、3駅先の鳥栖駅で乗り換えなければならない。

放送文

Ladies and gentlemen, welcome to our Tsubame express bound for Hakata. We will stop at Ijuin... before reaching Hakata Station. All seats in car No.6 and 7 are reserved. You can enjoy the meal at car No.4. Telephone service is available in cars No.2 and 5. If you... Please enjoy your trip. Thank you.

(第一研修室)